

自称詞使用に関する日韓対照研究

— アンケート調査に基づいて —

林 炫 情

1. はじめに

日本語と韓国語の人称代名詞は、西欧語に比べその数が多く、また西欧語などとは違い、絶対的な人称を表す文構成に不可欠な要素であるとはいえない。むしろ、話者としての自分と相手や話題になる第三者の関係を表す待遇的役割を担い、お互いの関係やそれぞれの置かれた場合によって使い分けをする必要がある。これは、相手に呼びかけることば（対称詞）のみならず、自分自身を言及することば（自称詞）においても同様である⁽¹⁾。また、人称代名詞の使用においても、日本語と韓国語では相手との上下関係や親疎関係に応じて選ばなければならない。例えば、日本語では目上の人や初対面の人に対して「おれ」などの人称代名詞は使いにくい。韓国語の場合においても目上の人や自分より年上であると思われる初対面の人に対しては「jeo」を使うのが最も一般的であろう。本研究は、バラエティに富んでいる日本語と韓国語の自称詞がそれぞれの場面でどのように使い分けられているかを明らかにすることが狙いである。

2. 調査方法

2. 1 調査時期と被験者

調査は2001年2月3日から3月27日の期間に、日本の広島と韓国のソウルで行った。被験者の選択に当たっては、年齢と職業の違いからくることばのゆれを少なくするため、年齢は25歳から45歳までに、職業は公務員および会社員に限定した。日韓の被験者の詳細は、表1に示したとおりである。

2. 2 質問紙と集計

調査では、日本語と韓国語の自称表現の使い分けをみるため、被験者が日常接し、かつ上下関係と親疎関係を考慮した人物を想定した上で、それぞれの相手に対して、使うと思う自称表現を選択肢から選んでもらった。まず親族内については、父・母、兄・姉、および弟・妹についての6種類の聞き手を設定した。また職場については、聞き手を上司、先

輩、年上の同僚とし、それぞれの聞き手に対して親しい・親しくないという「親しさ」の条件と、男女の性別の条件を加えて、3（上司・先輩・年上の同僚）×2（親しい・あまり親しくない）×2（男性・女性）で合計12種類の聞き手を設定した。その他に、親しい友達や近所の4-5歳の子供については、男女の性別の条件だけを加え、それぞれ2種類の聞き手を、50歳の人と高校生については、「親しさ」の条件（2）と男女の性別の条件（2）を加えて、それぞれ4種類の聞き手を設定した。聞き手の種類は全部で30種類である。質問項目の詳細については、本文のなかで提示する。また、選択肢は、あらかじめ予備調査⁽²⁾で得た語形を用いており、個々の選択肢は日本語と韓国語で異なっているが、大きく人称代名詞、親族名称、役職名、名前、その他といったようにまとめることができる。質問紙で用いた日本語と韓国語の自称詞の選択肢については、紙面の都合上省略し、そのなかで回答にあったリストだけをグラフのなかで提示する。なお、被験者には以上の選択肢から複数の回答を求めているので、集計は多重回答による記述統計である。

表1 被験者の国別、性別の人数および平均年齢

国名	被験者の性別	人数	平均年齢
日本	男性	74	35.7(6.71)
	女性	78	32.77(6.33)
合計		152	34.20(6.67)
韓国	男性	82	33.22(4.70)
	女性	72	31.51(4.93)
合計		154	32.42(4.87)
合計		306	33.31(5.89)

注: 括弧内は標準偏差。

3. 分析と調査結果

3.1 親族内での自称詞使用

日韓両言語における親族内での自称詞使用の実態は図1および図2に示したとおりである。まず注目すべきは、両言語では、親族内での自称詞として、人称代名詞、名前、親族名称などが用いられており、その中でも人称代名詞の使用が圧倒的に多いことである。しかし、人称代名詞の使用語形をみると、日本語では、人称代名詞の数が韓国語より多く、話者が男性か女性かという性差による使い分けが見られた。これに対して韓国語では、特に性差による使い分けは見られなかった。

日本語における人称代名詞の使用を具体的にみると、男性の場合は、親族内の相手に対しては、「わし」が全ての場面でよく使われており、とりわけ母に対しては全体の半分を示している(50.0%)。金丸(1993)では、「わし」は尊大感を伴って目下の者に対して、主に老人の男性に限って用いるとしている。本調査の結果は、広島という地域的な影響がかなり関係しているようであるが、これについては、次の機会に委ねることとする。そのほかに、「おれ」「ぼく」もよく用いられている。ただし、「ぼく」は、母に対する場面では見られなかった。また「自分」は、全体的に使用率は低いものの全ての場面でその使用が見ら

れた。これに対し女性の場合は、母に対する場合を除く全ての場面で「わたし」が最もよく使われている。男性では見られなかった「あたし」「うち」などは、使用率は高くはないもののすべての場面でその使用が確認された。また、母や兄に対してはわずかではあるが、英語の「Me」を用いるケースも見られた。人称代名詞の中で最も敬度が高い「わたくし」の使用は女性では見られなかった。

一方韓国語では、「jeo」は父(男性の88.6%, 女性の60.8%)や母(男性の77.0%, 女性の43.2%)に対して最も多用されているのに対し、「na」は、父(男性の5.7%, 女性の27.8%)や母(男性の14.9%, 女性の45.7%)に対してよりは、弟(男性の94.2%, 女性の88.5%)や妹(男性の92.7%, 女性の90.9%)に対して最も多用されている。また、「na」が全ての場面で見られたのに対し、「jeo」は弟や妹に対する場面では見られなかったことを考慮すると、「jeo」は目下に対しては使えないので、「na」より使用範囲が狭いと言えよう。兄や姉に対しては、男女ともに「jeo」よりは「na」を多用しているが、その使用率は男性のほうが高い。その他、男女ともに見られた英語の「Me」と男性のみに見られた「jasin(自身)」⁽³⁾は、その使用率も低いことから一般的な表現ではないようである。

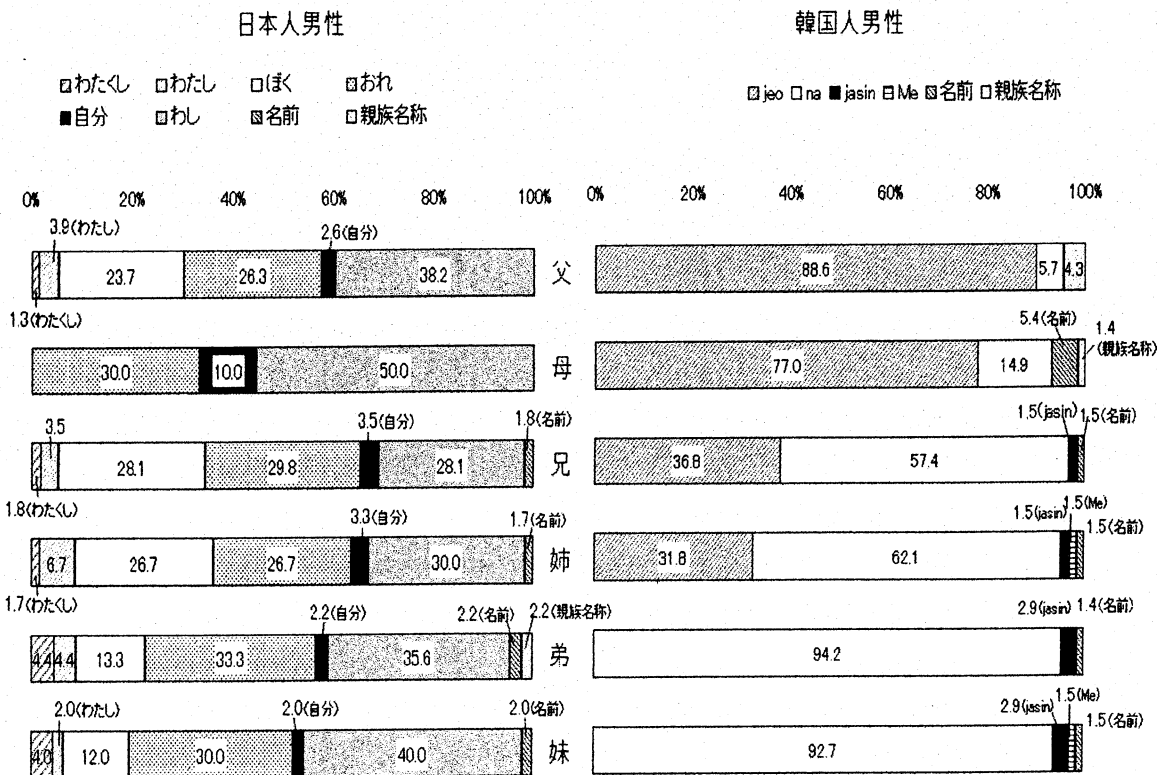


図1 親族内の自称詞使用(男性)

注:「言わない」,「その他」に関する回答は示していないので、合計が100%にならない場合もある。

日本人女性

韓国人女性

□わたし □あたし □うち 目Me □名前 □親族名称

□jeo □na 目Me □名前 □親族名称

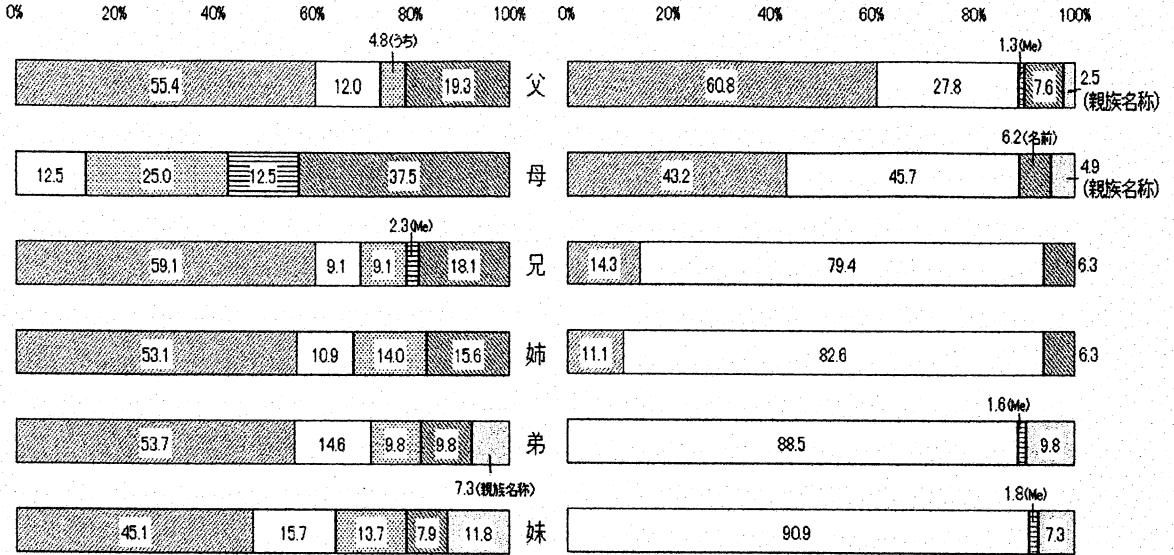


図2 親族内の自称詞使用(女性)

注:「言わない」、「その他」に関する回答は示していないので、合計が100%にならない場合もある。

自分を名前で言及する例は、日本人男性は父や母に対しては用いておらず、使用場面においてもその使用率はかなり低い。これに対し、日本人女性は全ての場面でその使用が見られ、その使用率も男性に比べるとかなり高いといえる。とりわけ母に対してかなり多用されているようである(37.5%)。一方韓国人の場合、男性は父を除いて、女性は弟や妹を除く全ての場面でその使用が確認された。しかしその使用率は、日本人と同様、男性よりは女性のほうが多く用いる傾向がみられた。

自分を「お兄さん(お兄ちゃん)・名前+お兄さん(お兄ちゃん)/お姉さん(お姉ちゃん)・名前+お姉さん(お姉ちゃん)」「hyeong・oppa, 名前+hyeong・oppa/nuna・eonni, 名前+nuna・eonni」と言及する親族名称の使用は、日本人の場合、男性は弟に対して、女性は弟や妹に対してその使用が見られた。また、親族名称の使用は男性(弟に対し2.2%, 妹に対し0.0%)よりは女性(弟に対し7.3%, 妹に対し11.8%)のほうがより多く用いる傾向が見られた。一方韓国人の場合、親族名称は女性のみに見られ、日本語と同様、弟(9.8%)や妹(7.3%)に対して用いている。その他に、韓国語では、わずかではあるが、父や母に対して「息子・娘」を意味する「adeul・ddal」を自称詞として用いるケースも見られた。このような表現は日本語では見られなかった。

3.2 職場での自称詞使用

職場での自称詞使用は図3と図4に示したとおりである。両言語では、人称代名詞と名前（日本人男性を除く）の使用が見られたが、最も一般的に用いられるのは人称代名詞のようである。職場での自称詞として選択肢にあった「社長」「部長」などの役職名は、両言語とも見られなかった。

日韓両言語の人称代名詞の語形は、その使用率は多かれ少なかれ親族内での場合と同様、職場でもさまざまに現れた。日本語についてみると、男性の場合よく使われている表現は「わたし」と「ぼく」「自分」であることが分かる。「わたし」は、あまり親しくない相手に対して、「ぼく」は親しい相手に対してより多用する傾向が見られた。「自分」は、すべての場面で1割以上を占めているが、その中でも親しい先輩（男の先輩に対し18.9%、女の先輩に対し19.8%）に対して若干多く用いている。そのほかに「わたくし」「おれ」の使用が見られた。「わたくし」はあまり親しくない上司（男の上司に対し9.0%、女の上司に対し8.9%）に対して、また「ぼく」より丁寧度が低いと思われる「おれ」は、親しい先輩や同僚に対して比較的によく使われている。

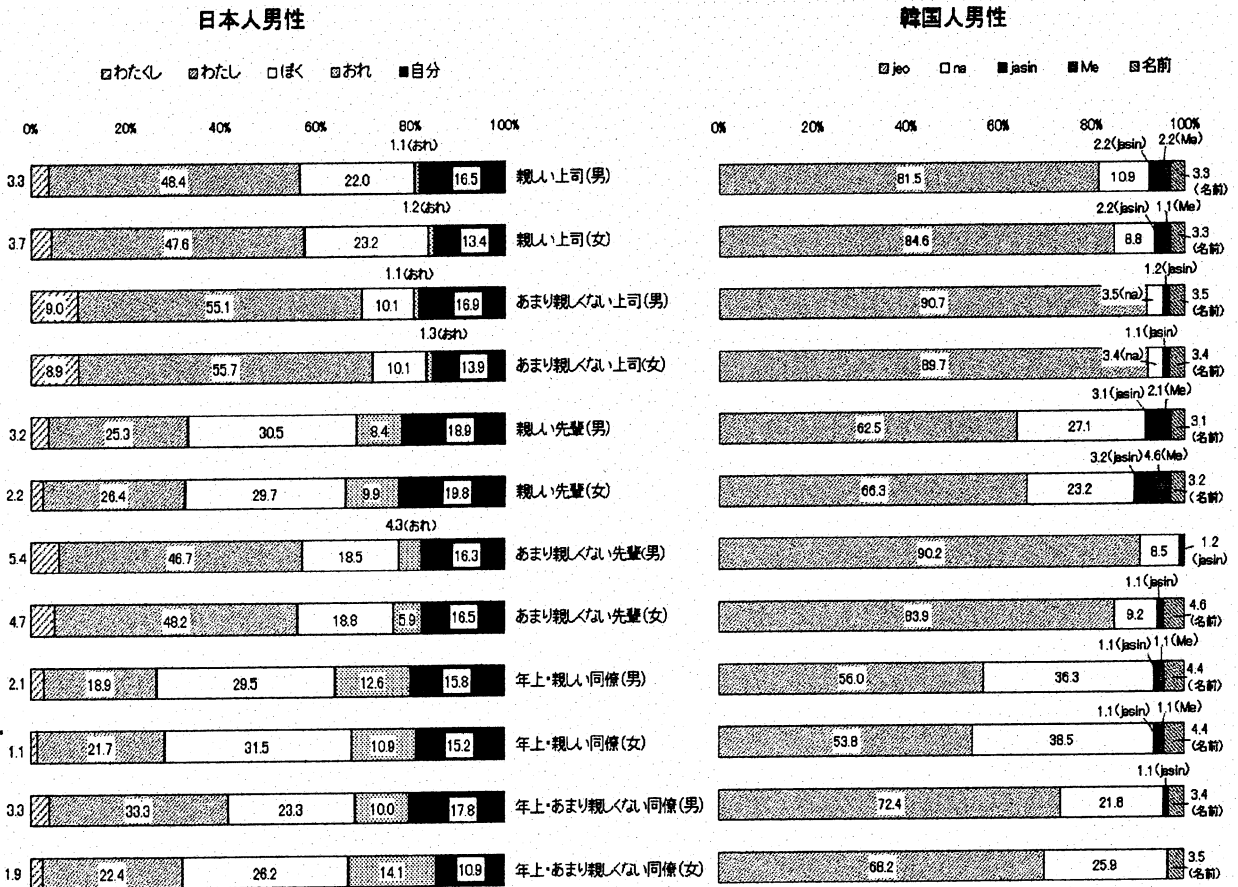


図3 職場での自称詞使用(男性)

注:「書かない」「その他」に関する回答は示していないので、合計が100%にならない場合もある。

日本人女性

韓国女性

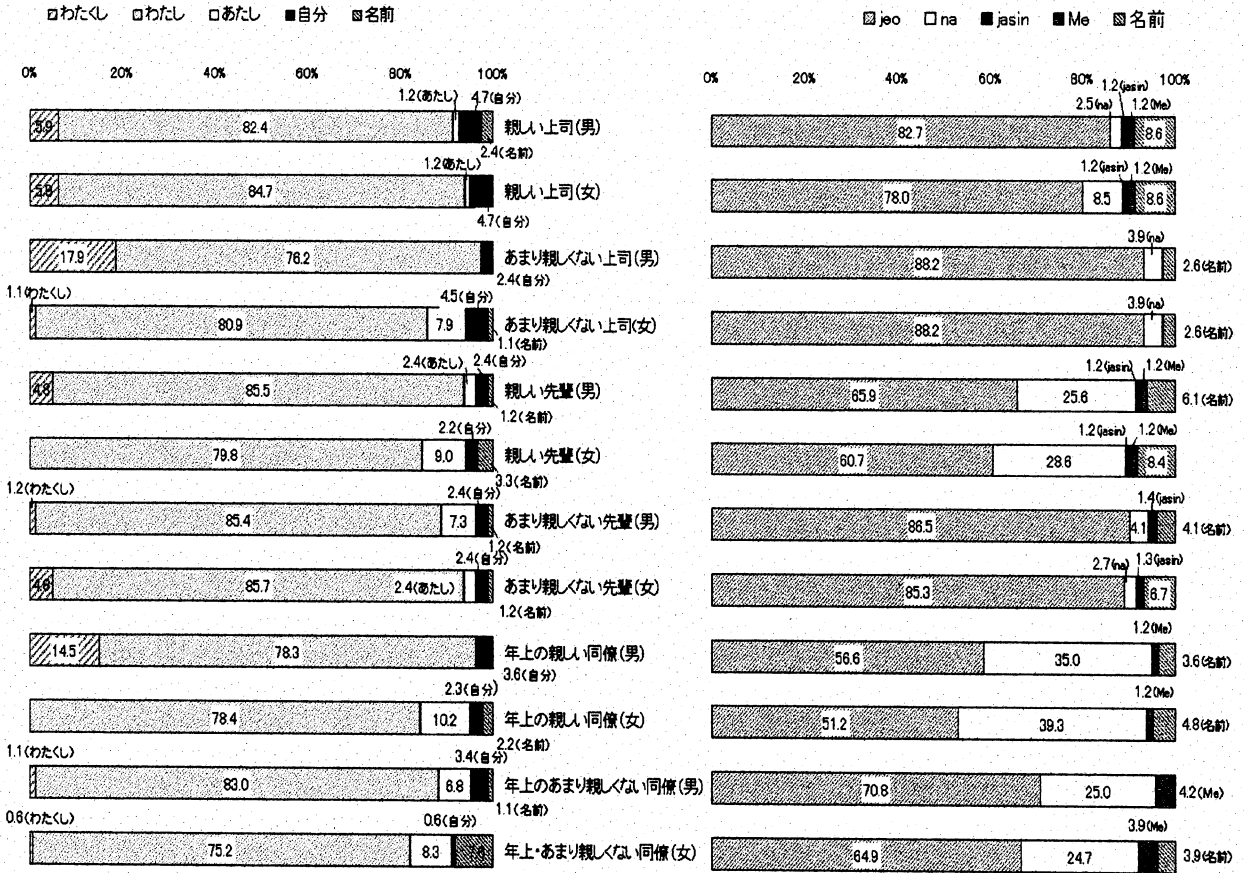


図4 職場での自称詞使用(女性)

注:「書かない」、「その他」に関する回答は示していないので、合計が100%にならない場合もある。

これに対し女性の場合は、最もよく使われているのは「わたし」で、すべての場面で7割以上を占めている。その他に、「わたくし」「あたし」「自分」の使用が見られた。「わたくし」はあまり親しくない男の先輩(17.9%)や年上の親しい男の先輩(14.5%)に対して、「あたし」は年上の親しい女の同僚(10.2%)や親しい女の先輩に対してやや多用されている。ところで、注目すべきは、女性において男性専用語とされる「自分」⁽⁴⁾の使用が見られたことである。しかも、その使用率は少ないものの、かなり広範囲で使われていることが分かった。日本語の自称詞や対称詞においては、男女間の差が縮まっている面があるという指摘(小林, 1997)があるが、本調査での女性の「自分」の使用もそれを示唆しているのであろう。

一方韓国語の人称代名詞の使用をみると、韓国語では日本語で見られるような話者の性差による使い分けは見られなかった。職場の上司、先輩、年上の同僚に対しては、男女ともに「jeo」が最もよく使われている。男女において、「na」が比較的に使われているのは、親しい先輩や年上の同僚に対してである。この「jeo」と「na」のような韓国の職場に

おける人称代名詞の使用は、職位や年齢の上下関係と親しいか親しくないかという親疎関係が使い分けに影響していると考えられる。しかし親しい間柄であっても、相手が職位または年齢上自分より上である場合は「na」よりは敬意度が高い「jeo」が多用されていることを考えると、親疎関係よりは上下関係がより優先されていると言える。その他に、わずかではあるが、「jasin」と「Me」の使用が見られた。

自分を名前で言及することについては、日本語は、女性のみに見られ、最も多く見られたのは年上のあまり親しくない女性同僚(7.7%)に対してであった。これに対し、韓国語ではわずかではあるが男性においてもその使用が確認された。しかし男女ともに、その使用率からもわかるように、一般的に使われている表現とは言いにくい。

3.3 その他の場面での自称詞使用

その他の場面での自称詞使用は、図5と図6に示したとおりである。両言語とも聞き手が男性か女性かによる大きな違いは見られず、聞き手の性差は自称詞の使い分けにあまり影響していないようである。以下、聞き手の性差は区別せずまとめて記述することにする。なお、以下で示す数値は聞き手の男女を合わせた数値である。

まず日本語の人称代名詞の使用をみると、男性はよく使われる人称代名詞の語形がそれぞれの場面で異なっていたのに対し、女性は「わたし」がすべての場面でよく用いられていることが分かる。具体的にみると、男性の場合、親しい友達に対しては「おれ(29.1%)」「ぼく(17.3%)」がよく使われている。50歳の人に対しては、相手が既知か初対面かによって、人称代名詞の語彙選択に違いが見られ、既知の場合は「ぼく(37.0%)」が、初対面の場合は「わたし(59.8%)」が最も多用されている。また、「自分」「わたくし」も相手が既知の場合と初対面の場合において違いが見られた。「自分」は初対面(7.4%)よりは既知(16.2%)に対して、「わたくし」は既知(4.7%)よりも初対面(11.1%)に対してよく使われる傾向が見られた。また、高校性についても、初対面か既知かによって違いが見られた。初対面の相手に対しては「わたし(25.2%)」が、既知の場合は「おれ(23.4%)」がよく使われている。「ぼく」と「自分」は既知よりは初対面に対してやや多用される傾向が見られた。「わたくし」の使用は50歳の人に対する場合に比べるとかなり低く、あまり一般的には用いられないようである。ところで、近所の4-5歳の子供に対する人称代名詞としては、「ぼく(10.2%)」がよく使われているようであるが、親族名称の使用率に比べると人称代名詞の使用率はかなり低いことが分かる。これに対し女性の場合は、近所の4-5歳の子供に対する場面を除いて、全体的に「わたし」の使用が6割を占めており、非常にポピュラーな表現であると言える。近所の4-5歳の子供に対しては、男性と同様、親族名称の使用が圧倒的に多い。その他、「あたし」「うち」「自分」の使用が見られた。「あたし」「うち」は親しい友達や既知の高校生に対して比較的によく使われている。「自分」は近所の4-5歳の男の子以外のすべての場面で若干見られた。

一方韓国語の人称代名詞の使用をみると、男女で大きな違いは見られなかった。親しい友達に対しては「na」が最もよく使われており、男女ともに全体の8割を占めている。50歳の人に対する場合は、既知か初対面かはあまり影響していないようで、両者とも「jeo」が圧倒的によく使われており、最も一般的に使われる表現であることが分かる。これに対し、高校性に対しては、「jeo」よりは「na」がよく使われている。ところで、ここで注目すべきは、初対面の高校性に対する「jeo」の使用率である。既知（男性の2.4%、女性の4.0%）に比べ、初対面（男性の17.6%、女性の21.8%）の場合は、「jeo」の使用がかなり高くなっている。「jeo」は、一般的に自分より目上の人に対して用いるのが一般的である。そのため、本研究でも明らかになったように、自分より年下である高校性に対しては「na」が最もよく使われる。しかし、既知に比べ、初対面に対する「jeo」の使用率がかなり高いことを考えると、上下関係とともに親疎関係も使い分けに影響していることが分かる。その他、「jasin」「Me」の使用が見られたが、その使用はかなり低く、「jeo」「na」に比べると使用場面も制限されるようである。

日本人男性

韓国人男性

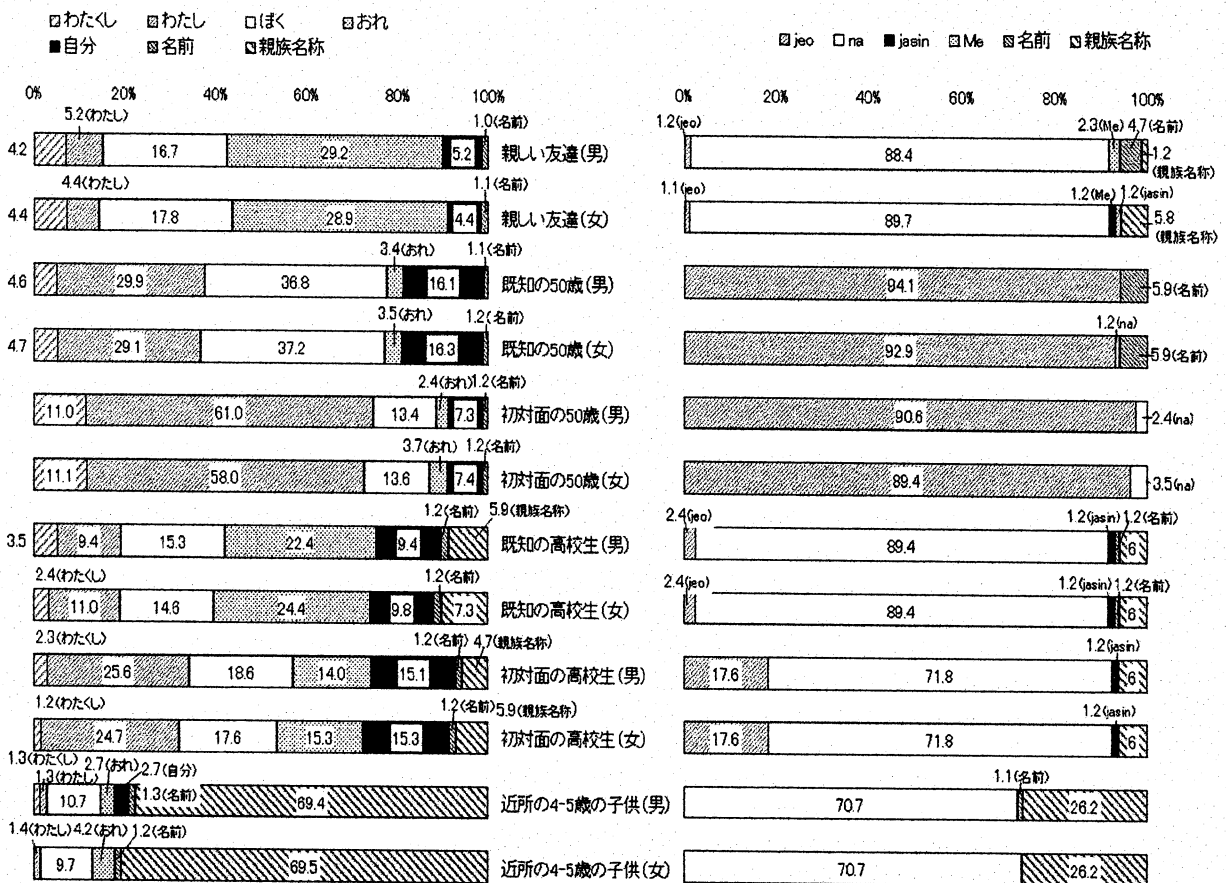


図5 その他の場面での自称詞使用(男性)

注:「言わない」、「その他」に関する回答は示していないので、合計が100%にならない場合もある。

日本人女性

韓国女性

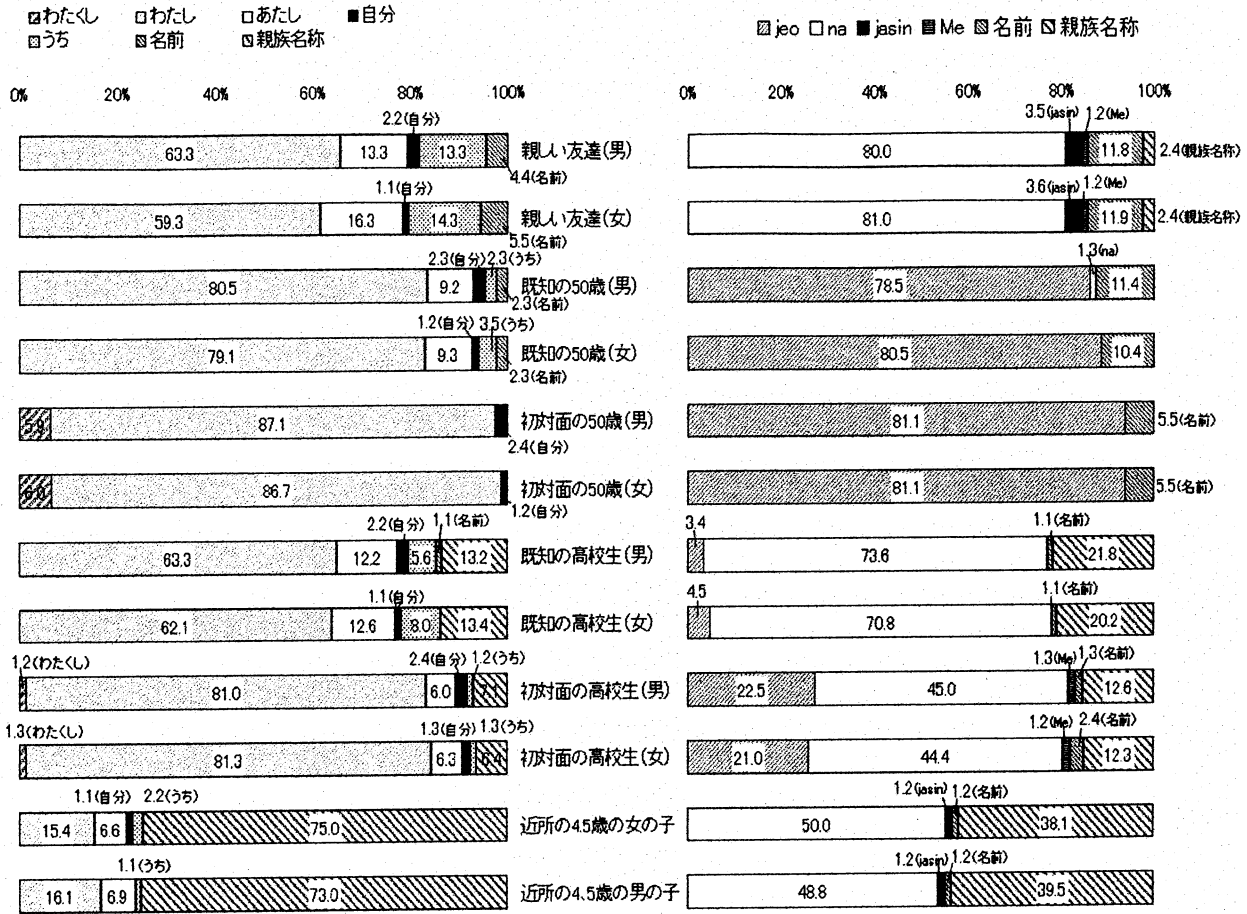


図6 その他の場面での自称詞使用(女性)

注:「言わない」、「その他」に関する回答は示していないので、合計が100%にならない場合もある。

名前の使用をみると、まず日本語の場合、男性はすべての場面で名前の使用が見られたものの、その使用はほんのわずかであった。これに対し女性は、親しい友達、既知の50歳、既知の高校生に対して見られ、親しい友達に比較적으로よく使われているようである。しかし、全体的にみると、その使用率は低く、一般的な表現とはいえない。一方、韓国語では自分を名前で言及する例は、男女ともに親しい友達、既知の50歳に対する場面において比較的によく使われる傾向が見られた。ただし、男性の場合、親しい異性の友達に対しては見られなかった。

親族名称の使用は、日本語の場合、高校生や近所の4-5歳の子供に対してよく使われている。とりわけ近所の4-5歳の子供に対する親族名称の使用は著しく、最も一般的に使われていることが分かる。一方韓国語における親族名称の使用は、自分より年下である高校生や近所の4-5歳の子供に対して用いるのが最も一般的である点で日本語と共通している。ところで、韓国語でわずかではあるが、親しい友達に対しても親族名称が見られた。

4. 考察

本研究では、日本語と韓国語における自称詞の使用実態について検討した。以上の結果から、両言語における自称詞の特徴と使い分けをまとめると以下の5つに要約できよう。

第1に、日韓両言語では、自称詞として、人称代名詞、名前、親族名称が用いられている。しかし、その使い分けにおいては子供に対する場合を除く全ての場面で、人称代名詞が多用されている点で共通している。また子供に対しては他の場面に比べ、親族名称がかなり多用されている点においても類似している。とりわけ、日本語の場合は人称代名詞よりも親族名称が圧倒的に多用されている。

第2に、日本語の人称代名詞は、韓国語に比べその数も多く、話者が男性か女性かによって使われる人称代名詞の語彙が異なっている。「わたくし」「わたし」「自分」「Me」などは男女において見られたが、「ぼく」「おれ」「わし」などは男性のみ、「あたし」「うち」などは女性のみに見られた。これに対し、韓国語の場合、「jeo」「na」「jasin」「Me」などの人称代名詞は男女ともに見られ、語彙の選択の観点からすると日本語で見られるような男性専用語、女性専用語の区別はないようである。

第3に、親族内では、両言語とも自称詞として人称代名詞が最も多用されている。しかし、人称代名詞の選択についての基準は日韓で違いが見られた。つまり、日本語では目上と目下という対立概念による使い分けはあまり見られなかったのに対し、韓国語では「jeo」「na」の使用からも分かるように、序列上の目上と目下の概念が使い分けに強く影響している。

第4に、職場での人称代名詞の使い分けにおいては、両言語とも上下関係（地位と年齢を考慮した）と親疎関係が影響している点では共通しているが、日本語の場合は上下関係よりは親疎関係が、韓国語では親疎関係よりは上下関係が優先されている。

第5に、その他の場面の自称詞の使用においても、両言語では上下関係と親疎関係による使い分けが見られた。しかし、50歳の人に対する場面と高校生に対する場面で分かるように、日本語の場合は、上下（とりわけ、年齢差）よりも親疎がより使い分けの基準となっているが、韓国語の場合は、親疎よりは上下がより強く影響している。

5. まとめ

本研究では、日本と韓国の自称詞の使用実態を調査し、その結果から両言語の自称詞の使い分けとその特徴に焦点を当てて考察を行った。以上、いくつかの表現（名前や親族名称）については、必ずしも敬度だけでとらえることはできない面がある。しかし、両言語で自称詞として最も一般的に用いられている人称代名詞の使用（ただし、子供の場合を除く）を中心に、グラフの全体の流れを見る限りでは、日本語の場合は、上下関係よりは親疎関係が、韓国語の場合は親疎関係よりは上下関係（特に年齢による）が使い分けを左右する面が多いと言えよう。

注

- (1) 例えば、両言語の習慣では、母親が自分の子を相手に、先生が生徒を相手に、自分のことを言及する際、「わたし」「」などといった人称代名詞を用いるよりも、むしろ「お母さん」「先生」などといった親族名称や職業・役割名を用いたほうが自然であろう。
- (2) 予備調査では、日本人3名と韓国人2名を対象に、普段使っている、使わないけれども聞いたことがある、あるいは実際、使ったこともないし聞いたこともないが使う人がいるかもしれないと思う自称表現を自由記入式で書いてもらった。ちなみに、被験者の年齢は皆20代である。
- (3) 「jasin (自身)」は、「na jasin (自分自身)」または「neo jasin (あなた自身)」のように、前の人称代名詞を強調したりする際に、人称代名詞の後に付いて使われる(黄燦鎬・李季順・張奭鎭・李吉鹿, 1993) のが普通である。しかし本調査では、その使用は低いものの、単独で一人称としても使われていることが明らかになった。
- (4) 一人称の「自分」はおもに旧軍隊で多く用いられた(『新明解国語辞典』, 1992) 男性専用語である。しかし、本調査の結果、「自分」は女性も用いていることが分かった。

参考文献

- 池上秋彦 (1984) 「体言の敬語法」鈴木一彦・林巨樹 (編) 『研究資料日本文法 9—敬語法編』 48-77, 明治書院
- 金丸芙美 (1993) 「人称代名詞・呼称」『日本語学—世界の女性語・日本の女性語』 12 (6), 109-119.
- 金田一京助・柴田武・山田明雄・山田忠雄 編集 (1992) 『新明解国語辞典』 三省堂
- 小林美恵子 (1997) 「自称・対称は中性化するか？」現代日本語研究会編『女性のことば・職場編』 113-137, ひつじ書房
- 黄燦鎬・李季順・張奭鎭・李吉鹿 (1993) 『韓日語対照分析』 明治出版社